事業推進の心　仮設労働安全新生プラン

陽のあたる安全文化の創造

もうよそう　ヒューマンエラーの他人事
築こう　安全足場で身近なしあわせ
めざそう　安心して暮らせる 心豊かな国創り

ACCESS新聞
Alliance Cooperation of Construction Equipment & Scaffolding for Safety

Vol.23

編集・発行人　松本邦宏
発行所
全国仮設安全事業協同組合本部
〒103-0001
東京都中央区日本橋小伝馬町
15－18　日本橋ＳＫビル
ＴＥＬ03－3639－0641
ＦＡＸ03－3639－0640

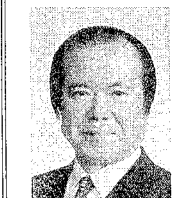
北海道支部	〒060-0807	札幌市厚別区下野幌テクノパーク２－１－14	電話(011)738－0641	ＦＡＸ(011)738－0640
東北支部	〒984-0816	仙台市若林区河原町１－３－24(大和第２ビル１Ｆ)	電話(022)716－6701	ＦＡＸ(022)716－6710
関東支部	〒103-0001	東京都中央区日本橋小伝馬町15－18(日本橋ＳＫビル４Ｆ)	電話(03)3639－1571	ＦＡＸ(03)3639－3980
北信越支部	〒950-0951	新潟市鳥屋野２－11－16(古木工業ビル１Ｆ)	電話(025)282－1031	ＦＡＸ(025)284－7810
中部支部	〒460-0008	名古屋市中区栄３－25－43(瑞穂ビル２Ｆ)	電話(052)249－7661	ＦＡＸ(052)242－6280
近畿支部	〒530-0012	大阪市北区芝田１－４－14(芝田町ビル８Ｆ)	電話(06)4802－3071	ＦＡＸ(06)4802－3070
中国支部	〒730-0017	広島市中区鉄砲町５－21(協栄生命広島鉄砲町ビル５Ｆ)	電話(082)511－2051	ＦＡＸ(082)227－2720
四国支部	〒760-0055	高松市観光通２－２－15(ダイヤビル本館７Ｆ)	電話(087)812－0131	ＦＡＸ(087)812－0130
九州支部	〒812-0011	福岡市博多区博多駅前４－10－13(奥村第３ビル４Ｆ)	電話(092)472－7000	ＦＡＸ(092)472－7100

ホームページ http://www.kasetsuanzen.or.jp/ Ｅメール info@kasetsuanzen.or.jp 各都道府県の支所へのお問い合わせは、各ブロックの支部まで連絡ください。

仮設安全時評

建築のヴァーチャル工場

九州大学大学院人間環境学研究院教授　松藤　泰典



私の研究室では、建築材料学および建築施工学に関連する研究を行っている。現在、テーマの一つとして「建設業労働災害に関する研究」に取り組んでいる。この研究の目的は、建設工程に対応した現場災害危険性モニタリングシステムの構築を行うもので、具体的には、過去の災害事例分析に基づく建設労働災害リスクマネジメントである。私はこの中で、現場仮設を「ヴァーチャル工場」として位置づけた。ここでその一部を紹介しよう。

建築工事において、「本設と仮設」という表現がある。このことから、仮設は躯体工事や仕上げ工事などの本体工事を主役とした脇役として位置づけられることが多い。確かに、仮設は建築現場では建築物本体建築のための1施設として機能するが、一方で、同じ材料を用いて、競技場やイベント会場などでは、観客席や時には本体構造物として単独で機能する。このときは主役であり、本設である。また、安全な作業空間を提供するということにおいては、本体建築物と同じである。

すなわち仮設は、単に計画供用期間が限定的という建築物であり、その高い転用性から、建築現場においては本体を建築するための施設として用いられていると解釈することもできる。

工業生産は、一般に、製造環境および製品その他の条件を一定に設定した恒久の工場で行われるが、建築物を工業製品として位置づけた場合、現場仮設は、工業製品としての建築物を製造する工場（ヴァーチャル工場）であるといえる。工期という限られた供用期間はあるが、仮設足場は工場本体であり、クレーンなどの重機類は工作機械である。建築工事は、工場と機械を作りながら、同時に製品を作ると考えると何とも興味深い。

さて、労働災害について話を戻すと、条件が恒久的な製造業では、災害発生の「いつ」「どこで」「どのように」を予測することはある程度可能であるが、建設業は、製造環境、製品（建築物）、条件のいずれもが工事ごとに異なる単一受注生産であることが、災害の予測を困難にしている。しかし、現場仮設を工場として位置づけ、さらに、災害発生を着工から竣工までの工事期間（工程）中に標準化することで、建設業においても、災害発生の「いつ」「どこで」「どのように」ということが示され、汎用性のある現場災害対策が可能になるのではないかと考えている。これが、「建設工程に対応した現場災害危険性モニタリングシステム」のベースになる。

最後に、梅雨期を過ぎこれから暑中期を迎える現在、とくに屋外作業が多い建設業従事者にとっては過酷な環境での作業を強いられます。降雨時は作業足場が滑りやすく、また、外気温が高い時には注意力が散漫になり、肉体的疲労が大きくなります。統計から、建設業労働災害は夏場の午後に発生率が高く、さらに近年では、熱中症が多く報告されています。

細心の注意と健康管理（休養、水分補給）を心がけていただき、安全に作業が行えるよう心から願います。

新潟県　墜落事故防止に取組み

手すり先行足場

自治体初のモデル工事

新潟県は2002年度に、墜落事故防止に向けた取り組みとして「手すり先行足場」を採用したモデル工事を実施します。同県では、国が昨年度からモデル工事を実施していることや、積雪寒冷地における通年施工の取り組みのなかで以前からスリップ事故対策が課題となっていたことなどを踏まえ試行に踏み切ったとしています。

国土交通省などでは、自治体に対しても手すり先行足場などの採用事例を紹介するなどして自主的取り組みを促しており、今回の取り組みは今後、全国の他の自治体での実施に向けた弾みとなるものと期待されます。

同県では今年度、手すり先行足場のモデル工事を3カ所で実施する予定です。新発田土木事務所の国道290号線鍬江沢川橋橋脚工事（黒川村鍬江）、長岡土木事務所の一級河川稲葉川（猿橋川）関連公共広域河川改修基幹（一級）工事（長岡市福島町）、佐渡地域振興局地域整備部の過疎代行赤泊浄化センター管理機械棟他（建築）工事の3件です。

鍬江沢川橋橋脚工事は9月発注の予定で、そのほかの2件はすでに発注済みで、8月中に仮設足場を組み上げる予定だということです。

全国波及へ弾み

県では手すり先行足場について県職員対象に現場説明会も予定しており、同足場の特徴などについて全国仮設安全事業協同組合（ACCESS）北信越支部から説明を聞き、実際に組み立て状況などを見学する予定です。説明会は8月5日、長岡市内の猿橋川工事現場を対象に行われる予定です。

県では今回のモデル工事試行について、積雪時における効果などを中心に検証し、結果を踏まえ来年度以降の対応を考えていく方針だということです。

北陸地方では、手すり先行足場の採用について国土交通省北陸地方整備局が1994年度から技術活用パイロット事業として導入、暫定歩掛りも設定するなど墜落事故防止対策として積極的な活用が行われています。

北海道仮設安全大会

26日札幌パークホテルで開催

当組合北海道支部（片桐理支部長）は26日、札幌市中央区の札幌パークホテルで、「見える安全　感じる安心」をテーマに北海道仮設安全大会を開催します。昨年12月に横浜市内で開いた第1回全国仮設安全大会に次いで催されるもので、今年度は関東支部、近畿支部でも開催を予定しています。

この北海道大会は、当組合本部が協力し、建設業労働災害防止協会北海道支部と社団法人軽仮設リース業協会北海道支部の協賛、日刊建設通信新聞社などの後援の下に行われます。

プログラムは片桐支部長の式辞、小野辰雄当組合理事長あいさつのほか、北海道労働局労働基準部の平松全一安全課長、北海道開発局事業振興部の片倉浩司工事評価管理官、建災防北海道支部の横江須美夫理事・事務局長など来賓祝辞をいただき、当支部の早川信義副支部長による大会宣言を行う予定です。

また、労働安全コンサルタントの濱宮昭夫先生による「来島海峡大橋の架設と安全」と題した特別講演が行われるとともに、大会と併行してホテル敷地内で「手すり先行方式足場」の屋外展示も開催されます。奮って参加してください。

厚労省　鋼管足場を性能規定化

新製品の技術開発促す

厚生労働省は、仮設機材メーカーの技術開発を促進するとともに、ユーザーからの要望を製品に反映させるため、仕様要件を廃止して性能要件を新設します。2002年度は、「鋼管足場用の部材及び付属金具の規格」を対象に、技術、法制度を検討して、来年度にも大臣告示を改正し性能要件に移行したい考えです。6月25日に開いた「足場等の安全対策検討会」（座長・加來利一日本クレーン協会会長）の第6回会合で説明しました。

厚労省は、01年度予算で仮設機材関係構造規格改正の検討経費を確保、これをもとに同年7月、仮設工業会に委託して「仮設材の安全に関する調査研究委員会」を設け、02年3月に仮設機材構造基準の性能要件化についての検討結果をまとめました。

来年度にも大臣告示改正

対象とする規格は①鋼管足場用の部材及び付属金具の規格②つり足場用のつりチェーン及びついわくの規格③型わく支保工用のパイプサポート等の規格④合板足場板の規格―の4つです。このうち最初に鋼管足場を取り上げ、ほかの3規格はこの結果を踏まえて順次見直すことにしています。

鋼管足場の見直しは、規格の名称、章立ては現行通りです。構造要件の寸法など仕様要件は原則削除しますが、布板一側足場の床材幅など性能要件に関係する仕様要件は残します。現行の規格で構造要件によって区分されている標準わく、簡易わくなどの建わくの種類は残し、新たに狭幅わくを加えます。

鋼管足場の規定は現在、部材ごとに寸法などを規定していますが、性能要件にすると、開発した製品が規定の性能を満たしているかどうかを確認するために、試験が必要になります。

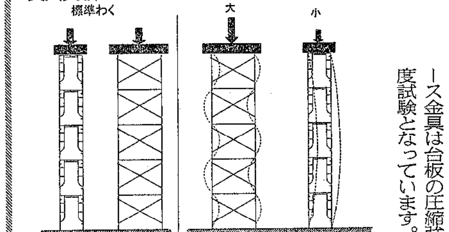
性能確認の試験必要に

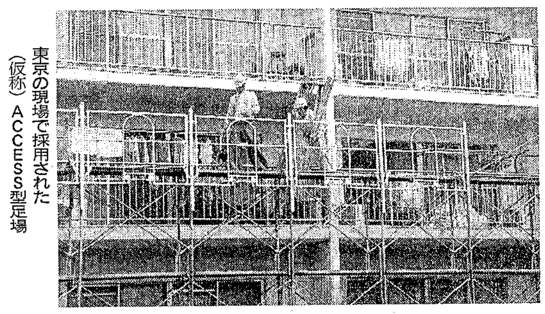
試験方法は、建わくが実大組立荷重試験、交さ筋かいは圧縮試験ができない構造の場合が実大組立荷重試験、布わくはせん断剛性試験、床付き布わくはねじれ剛性試験とせん断剛性試験、持ちわくは吹き上げ試験、脚柱ジョイントは一定以上のカラー長がある場合が実大組立荷重試験、固定型ベース金具は台板の圧縮強度試験とほぞの引張強度試験、ジャッキ型ベース金具は台板の圧縮強度試験となっています。

実大組立荷重試験については、被試験部材以外の部材は標準部材（現行構造規格によるもの）としますが、標準部材が取り付けられない場合は、被試験部材専用のものとします。

個別の企業では、装置などが大きく試験ができない場合、仮設工業会が試験を引き受ける方針です。

現在でも、構造要件にしばられないで製品を開発することは可能ですが、1形式ごとに厚労省に適用除外を申請する必要があり、手間がかかっていました。同省は、性能要件に移行することで、こうした手続きが不要となり、技術開発が進むと期待しています。





東京の現場で採用された（仮称）ACCESS型足場

ACCESS型足場普及へ

全国中小企業団体中央会の補助金活用

当組合は、全国中小企業団体中央会からの補助金を得て、昨年度開発した「安全で安心して作業が出来る仮設機材（仮称）ACCESS型足場」の改良と普及事業に着手します。

昨年度、試作した「①先行手すり②二段手すり③つま先板（幅木）」の安全性を検証するため、安全な足場機材を実現場に提供し、改良点を抽出し、委員会を開催したうえで改良を施した試作を行い、実大実験を通じて、より安全な足場機材を開発します。

改良した成果を普及促進するため、組合員に対して機材の展示、実演等を実施する講習会を開催し、仮設に起因する労働災害の撲滅を図っていきます。

そのため、多様な施工条件に対する適合性を考慮し、実際に組立解体を行う専門工事組合員に先行手すり機材を提供したうえで、機材の作業性、利便性、収納性、運搬効率性、安全性などのデータを集積します。

普及事業を具体化するため、学識経験者、メーカーおよびレンタル企業の技術責任者並びに専門工事業者の代表10名からなる委員会を発足させ、基本方針を決定します。

「安全で安心して作業の出来る足場機材」改良については、作業部会が担当し、委員会と作業部会は7月中に発足、検討作業は来年の1月までに行います。

なお、成果普及講習会は来年の2月を予定しています。

整備・検収安全監理者

養成へ取組み本格化

当組合では今年度から、現場から機材センターに戻った仮設機材を点検する責任者である「仮設整備・検収安全監理者」の養成に本格的に取り組んでいます。

改めて言うまでもありませんが、仮設機材は現場から現場へと繰り返し使います。現場で傷んだ機材を見つけだし、きちんと整備し、欠陥のない機材を次の現場へと送り出すことが、仮設に起因する事故を未然に防ぐ重要な手だてです。

整備・検収監理者の養成は、仮設機材のリースレンタルのこうした基本業務を、資格を持って行う体制を整えることがねらいです。

具体的には今後順次、機材の出荷伝票（納品書）に、整備・検収監理者の名前の入った「検査済証」を押印していきます。

一部の大手ゼネコンは、当組合の安全監理姿勢を評価し、当組合の機材でこの検査済証を押印したものを使用することで製品指定されました。

組合本部では「整備・検収業務を円滑に進めるため、機材センターごとに最低2人は監理者資格を取得して欲しい」（松本邦宏専務理事）と考えています。

また、資格者には、機材センターの責任者として、整備・検収の従事者をきちんと教育・指導することも期待しています。

資格取得のための研修テキストは、見て分かるように写真集を用いました。機材の傷みの状態に応じ、修理の要不要、廃棄処分にすべき損傷レベルなどを、きちんと判断できるようにしています。

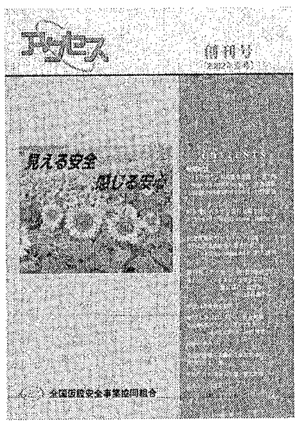
四国支部が香川労働局の安全週間表彰式に出席

当組合四国支部は、安全週間目の7月1日、高松市のKKR高松・さぬき荘で開催された「香川労働局の安全週間表彰式」に来賓として出席しました。これは、香川労働局長から河野支部長宛に、「平成14年度全国安全週間に際して行う表彰式に出席してほしい」との案内をいただき、松岡一安全監理委員長が参加し、組合のPRをしました。

表彰式の来賓は建設業労働災害防止協会香川支部など香川労働局管内の労働災害防止団体等のメンバーで、当組合四国支部も準会員的な扱いになっています。

式典では局長あいさつ、厚生労働大臣メッセージ、局長表彰者代表による祝辞、受賞者代表の謝辞に続き、記念撮影や昼食会が催され、香川県の建設労働安全関係者と交流を深めました。

会報『アクセス』を創刊

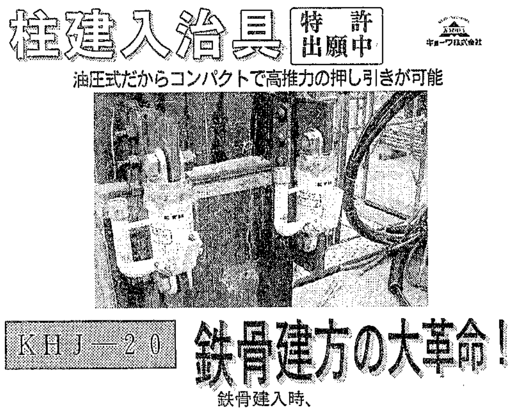


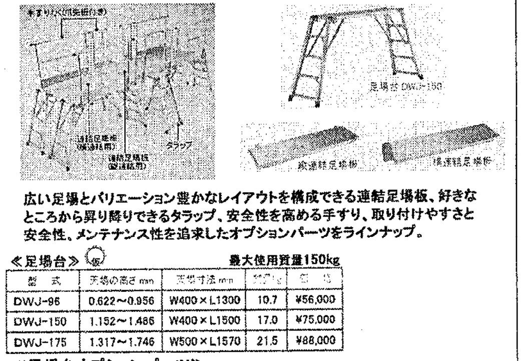
全国仮設安全事業協同組合では季刊の会報「アクセス」を創刊＝写真＝しました。当組合では月間の本紙『ACCESS新聞』を発行し、建設産業界の各方面に仮設安全の必要性などを啓発してきているところですが、雑誌形式の会報を新たに発行することで、安全確保活動をより多くの関係者に紹介、建設労働災害防止の一助にしたいと考えて発刊しました。

会報『アクセス』は、Ａ４版16ページ建てを基本とし、創刊号は国土交通省などが2001年度から取り組んでいる「手すり先行足場のモデル工事」について、同省の佐藤信秋道路局長（前官房技術審議官）と当組合の小野辰雄理事長による巻頭対談、02年度定時総会、作家の田村喜子さんによる寄稿「会報の発刊に寄せて」、組合の歩み、（仮称）ACCESS型手すり先行足場の紹介、安全現場で活躍する職長さん紹介などを盛りたくさんとなっています。

ご愛読をよろしくお願い致します。

安全な仮設機材の新商品


柱建入治具　特許出願中
キョーワ株式会社
油圧式だからコンパクトで高推力の押し引きが可能
KHJ－20
鉄骨建方の大革命！
鉄骨建入時、
すばやく簡単に取り付けられ、
安全で簡単に柱建ち調整が出来る、
柱建入用の新しい治具です。
キョーワ株式会社


作業の快適性をさらに追求!!
足場台／足場台用オプションパーツ
広い足場とバリエーション豊かなレイアウトを構成できる連結足場板、好きなところから昇り降りできるタラップ、安全性を高める手すり、安全性、メンテナンス性を追求したオプションパーツをラインナップ。
《足場台》　最大使用質量150kg

型式	天端の高さｍ	天板寸法mm	質量kg	価格
DWJ-95	0.622～0.956	W400×L1300	10.7	¥56,000
DWJ-150	1.152～1.485	W400×L1300	17.0	¥75,000
DWJ-175	1.317～1.746	W500×L1570	21.5	¥88,000

《足場台オプションパーツ》
■連結足場板　■タラップ　■手すりわく（つま先板付き）
ピカ コーポレイション　《ホームページ》http://www.pica-corp.co.jp
東京支店 ☎03-5605-9611　大阪営業所 ☎06-6747-6841
営業所／札幌・仙台・新潟・北関東・名古屋・広島・福岡　工場／滋賀・栃木